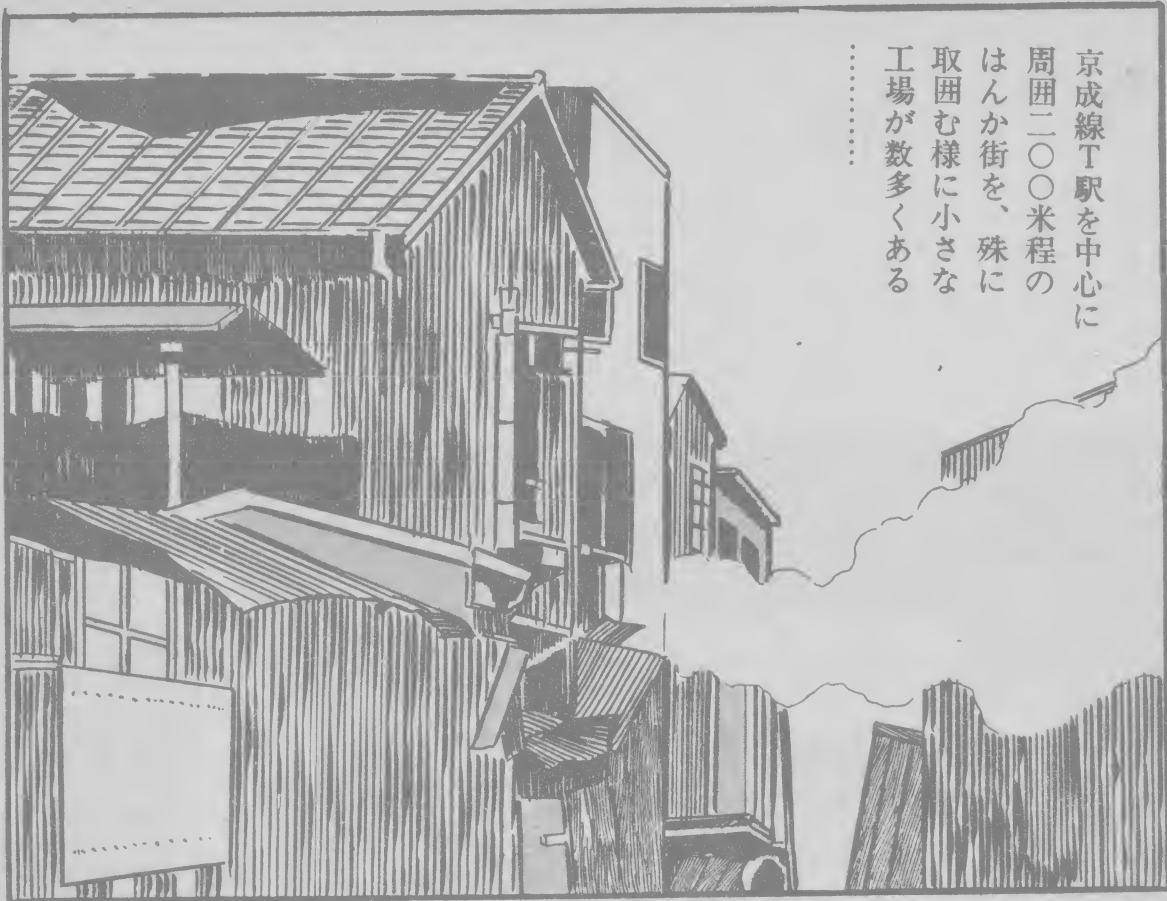
雨　季（一）

つげ忠男

京成線T駅を中心に
周囲二〇〇米程の
はんか街を、殊に
取囲む様に小さな
工場が数多くある
……

この町がどこか
うす汚れた印象を与えるのは
年中、媒煙と様々の臭気に
おおわれている所為
だろうか……

こう言った連中が
いつも屯ろする
街だ……

ドン

す、すいません……どうも

気を付けて歩かなきゃな、人は右、車は左……な、知ってんだろ、それ位
ハイ……すみません……
オゥ行こうぜ………

じゃあな…

このお！………
ドスッ

ほらぁ！
この野郎
……

雨が
近い様です
ねえ……

よう許しま
せんね
あの連中
は……
あ？

僕達はもう、この町の隅々まで歩きつくしました……
それでも未だ9時になったばかり

今、丁度喉が渇いていたから、これは良い所に酒場があった………
もつ焼

ゲ
エッ

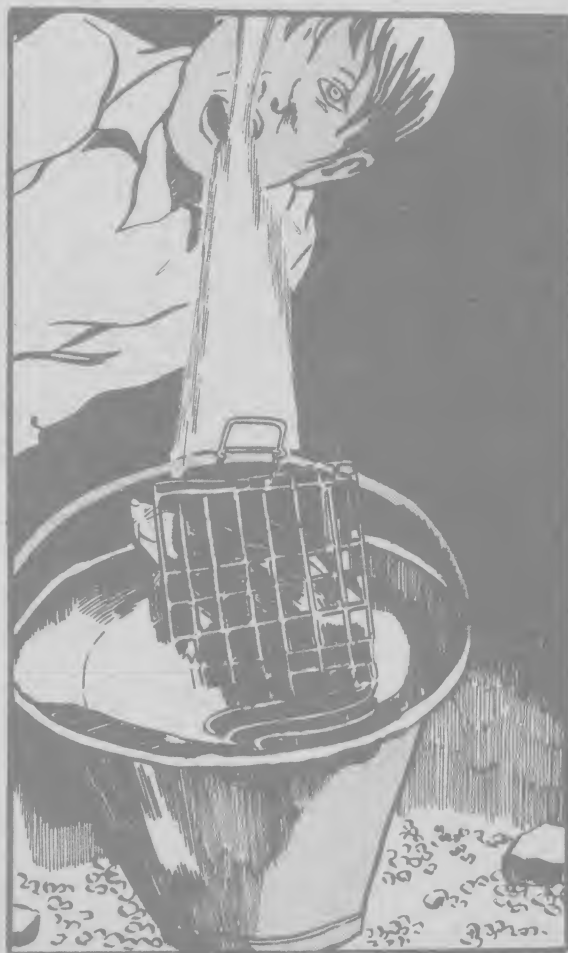
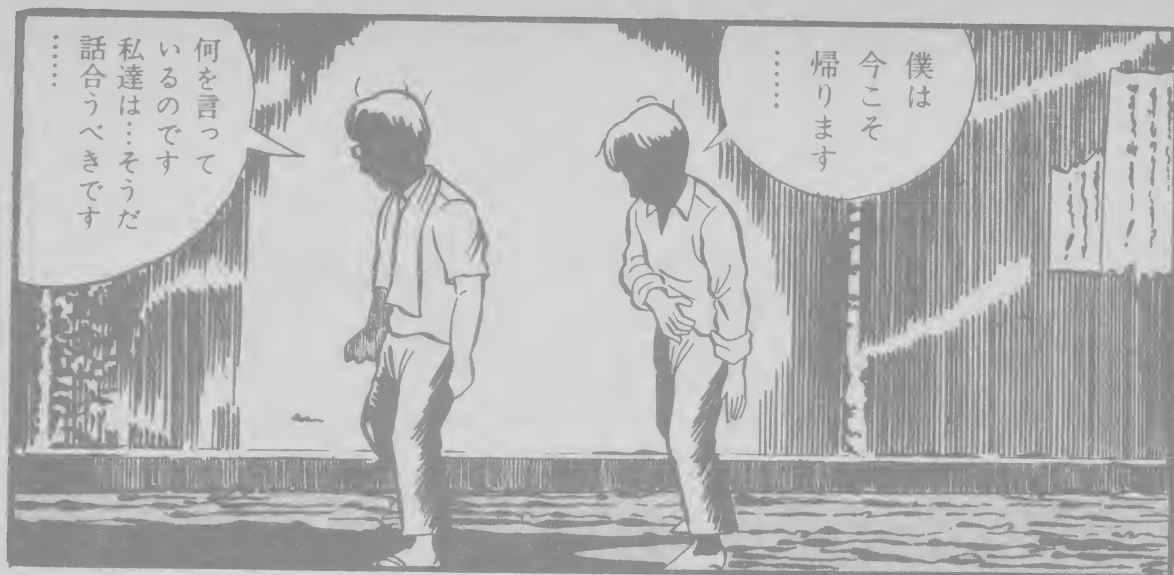
さあ……どうしました…

もしかしたら
あんた胃が
悪いのじゃないか
な?……

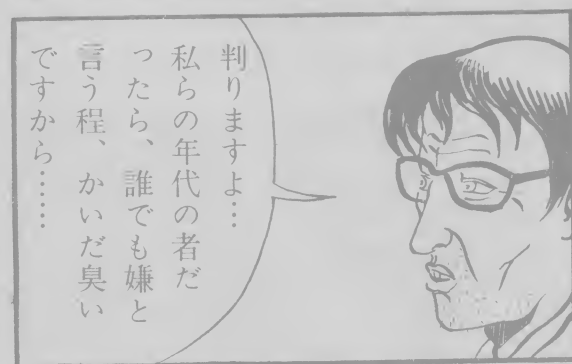
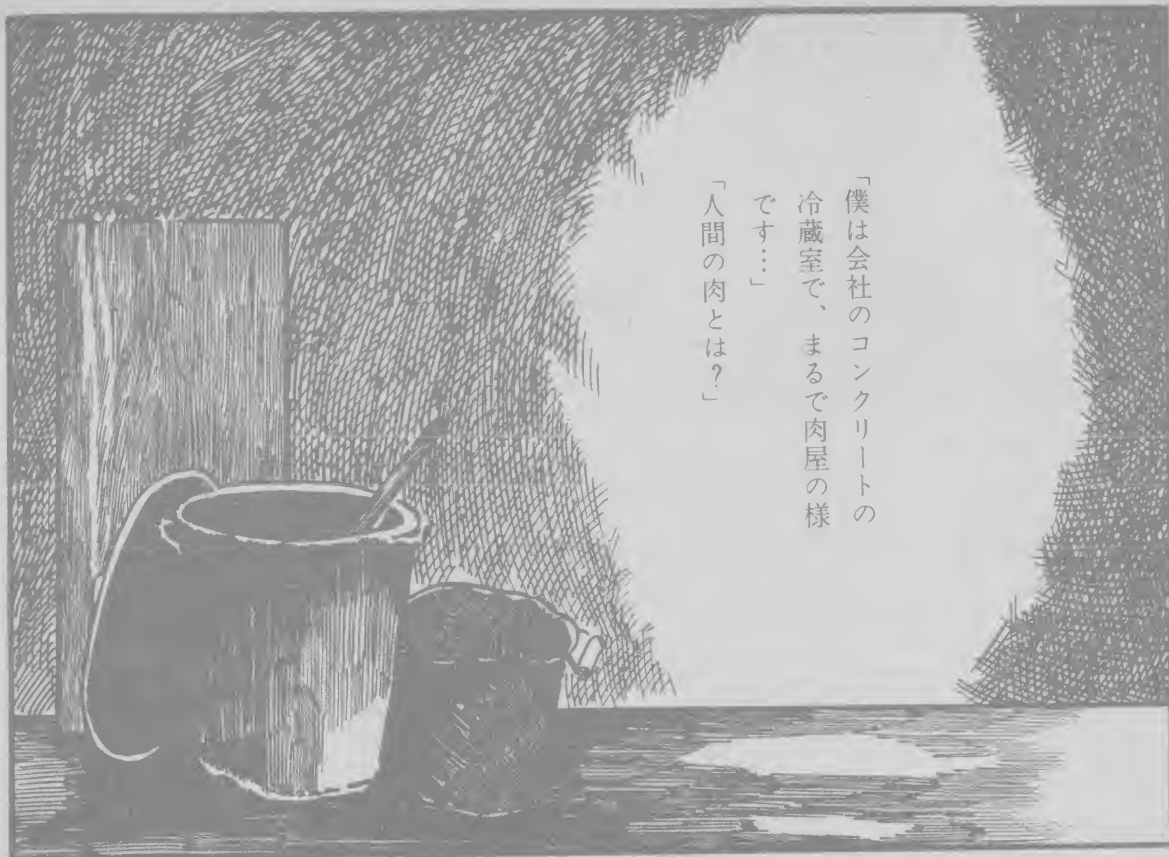
僕は
今こそ
帰ります
……
何を言って
いるのです
私達は…そうだ
話合うべきです
……

なんですっ
て？
何を一体…

ま…いいです
歩きましょう

私や
この町は
あの頃と
どう変わった
のだろう…
……

変わってなんかいません……どう変われと言うのです……
けれど…私やこの町はどんな風に変わったのだろう……

向こうの方に、さっき通った踏切が見えるでしょう……僕は昔……子供の頃、そこで飛込自殺を見ました……
片腕の中年男でした…

あの時、僕は踏切を渡る心算だったのに……僕は未だに、自分が、あそこに佇んだままで居る様な気がしてならないのです……

あんたは……私にもそうしろ…と言いたいのではないですか？
いいえ……その逆です……ずっとずっと、いつまでもです……

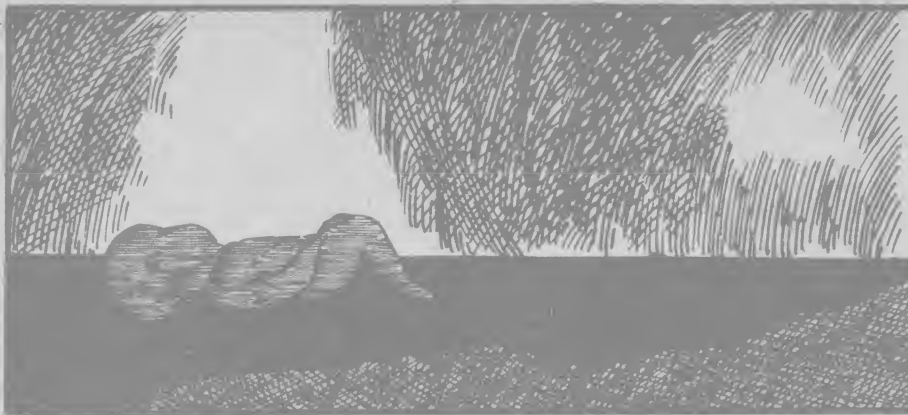
ところであんたは血のにおいがするなあ……

…………血のにおいなんてのが判るのですか？

判りますよ…私らの年代の者だったら、誰でも嫌と言う程、かいだ臭いですから……

僕は毎日……
包丁で……

人間の肉を……切っているのです…

「僕は会社のコンクリートの冷蔵室で、まるで肉屋の様です…」
「人間の肉とは？」

「絞った血を何に使用するのか…あまり、よく知りません。……」
「……気味が悪い……」

この仕事は僕ともう一人の男でやっています……
その男の無口は、唖に近い位です。一服する時、彼は裸になって日光浴をします……
三十五、六歳でしょうか何を思っているのか見当も付かないのですが……
……時々……

……参っちゃいました。
あれを初めて聞いた
瞬間に…何がどう
なってもいい様な……
やり切れない気分になって
…それがずっと、今も続いて
いるのです……

キッチン
ふたば

あんた
未だ若いのに
随分年寄り臭い
なあ……………

ここの
露路は、薄暗くて
トンネルの様です
ね………

長あい
ながあい
トンネルが
不意に
途切れて
………

どこかとんでも
ない場所へ
立たされてしまった
様な戸惑いが
あなたには有る…と
言いたいのですか?

ヨッコラショッ
……と
疲れましたねえ
……

あ〜あ
やんなっ
ちゃった
なあ……
……

……僕は……
………許さ
ないぞ

…………
…………？

ははは
冗談ですよ…
冗談……

さあ
行きましょ
うか……
ばっかやろ
う……酒の
んで悪いなら
……ばかあ
酒売るなぁ

判んだろ
俺の言ってる
事がよお…

あ、停電
かあ?……
なんだ今頃よ

戦時中じゃあるまい
し……電力会社は
何をやってるんだあ
……このお

くうしゅう
けえほう
はぁつれえ
……だ
……
あははは…
…ひどいなあ
これは……

くうしゅう
けえほお
はぁつれえ
……

ああ……
……なんと
言う…悪質な
……

ははは
血がにおい
ますか
血がにおい
ますか…

ああ
……

皆んなは
…どこへ…

さあ…もういい加減にしましょうや…ははは……みっともないじゃないですか…
そうですね……そうですね……

どうやら停電も直った様です……
飲みましょう…酒場がある……

いいですとも……付き合いますよ……判るのです僕には……

五六

……どうしました?
さあ忘れましょう…元気を出して下さいははははは

今夜、あなたと知り合わなければよかった……恥かしい私は……

いいですよ……
正直なんだと思います…僕の出会った中で一番…

考えて見れば、只々とに角生きて来たあなた達がうらやましいのだし………又
そのしわよせだけを押しつけられた僕等にはとても不公平だなと言う気があるのです

あ、ほら〳〵やって来ましたよ
バラバラ

それでいてあなた方を理解できる僕等は………
現在、一体何処に居れば良いのでしょう

おそらく………
この一雨で梅雨あけになるでしょう………

照臭いのですか…
もつ焼
おでん
僕の話を避けている様ですねえ

さすがにうまいもんですねえ…さっきは話合うべきだと………
あなたは、そう言った筈なのに………

あなたは、先刻無様な私を見たでしょう
満足したのではないですか？

しかし、今のあなたは落着き払っているじゃないですか……しかもしぶとい笑いさえ浮かべて……それは？

アーリラン
アーリラン……
って歌
知ってますか？

…………………
知っていま
す……が

あのね、私ね
……いいですか……
ほら、ここが、この肩
のところ……
え?え
なんですって
……

ここがカーッ
っと熱くなっ
ているんですよ

ああ…

さ、さ
一寸さわって
ごらんなさい
……ほれ
ああ…

早く！

………

……ウ、ウ
ピタッ
……

ザーー
ザーー
判ってたんですね……初めからこうなる事は………………

あなたの
手はとても
冷たいの
ですねえ
……
ははは…

ははは

おや？
雨の音が
小さくなった
様です………
……
止んだら
僕は帰り
ます
もう……
ザー
ザー

未だ
ポツ〳〵っ
と降ってる様で
す……

今、十一時半
です。この町も
ようやく静かにな
ってきました……

ながあい
夢です……
これからも…

僕等の世代で
終りですよ…
きっと

今になって
私には、どう仕様
もない腹立たしさ
が……何に対して
なのか言葉で説明
出来ないのですが
……それが
あるのですねえ
…………

そりゃあ
私達は、取返しの
つかない、あやま
ちを犯した……と
してもです……そ
れにしても……

実際、言って徹底的に傷付け合った方が良いのか…それともいたわり合うべきなのか…

どっちだって良いです……どうせ同じ事なんだから………

……静かですねえ……

最終電車ですね…
カンカン
カンカン
カン

矢張り……この様に……
立っていたんですね…その人は
そうです…電車は次第に近づいて来ました………
カンカン
カンカン

平静だったのでしょうか？……
判りません……
ゴーッ

ガン
カンカン

ガッガン
カンカン

完 44. 5. 31